

○教育振興管理費 2,258万9千円
高柳Q：学校医報酬について、児童の放射線による健康調査や尿検査の改善に向けた検討の有無と今後の考え方について伺います。
A：「原発事故子ども・被災者支援法」に関する要望書が提出されるなど、心配される保護者の方々がいることは認識しています。
学校内で健康診断の一貫としての健康調査や尿検査は、検討しましたが、費用や施設の状況等もあり困難と考えます。
高柳Q：「医師問診」の具体的改善や変更点はありますか。
A：内科検診の際、各家庭に配布する「健康診断事前調査票」に既往歴の他「心配なこと」を加える方向で今、医師会等と調整中です。



 上記のとおり、今年から「事前調査票」が新しくなるということで、期待もしています。
ただ、せっかく学校が「その他・心配なこと」を追加してくれても、忙しいお母さん達が、丁寧な記述に心がけてくれないことには、何もありません。お知り合いに新1年生がいましたら是非、声かけをお願いします。

**連合なんでも
労働相談ダイヤル**

☎0120-154-052

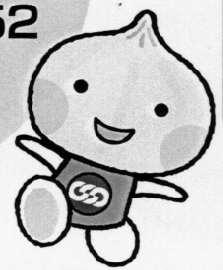
予約・相談はこちらへ
・秘密厳守・相談無料・



- 専門のスタッフが労働相談に応じます
- 組合員でなくても相談できます
- 秘密厳守！安心して電話して下さい
- 組合づくりのお手伝いもします
- 労働問題は悩むよりも相談
- 連合には675万人の心強い仲間がいます

連合群馬 群馬県前橋市野中町 361-2 県勤労福祉センター内
http://www.rengo-gunma.gr.jp 連合群馬 検索

相談ダイヤルは年間(平日9時から17時)を通して受け付けています。



『チェルノブイリ膀胱炎』
尿から内部被ばく
～20年で2倍 東京新聞 9月14日～
福島第一原発事故から半年、子どもの尿から放射性セシウムが検出されるなど、福島県内では内部被ばくの危険にさらされている。
医学博士の福島昭治・日本バイオアッセイ研究センター所長に話を聞いた。
非汚染地域での発症はなかったが、高線量と中間的線量の地域の約6割で、膀胱がんの前段階である「上皮内がん」を発見した。
病変は、DNAでがんの発生を抑える「P53遺伝子」などが、セシウムのガンマ線などで変異して損傷したのが原因と見られた。
福島氏は、「膀胱がん化する恐れが高い慢性の増殖性膀胱炎と結論づけ、2004年にチェルノブイリ膀胱炎」と命名した。

 このまま「幕引き」となる「安全宣言」でいいのか？

残念ながら、福島原発の事故の収束は混迷し、沼田市でも除染作業は遅れ、放射性物質は小さく凝縮して移動しています。
こうした中、子どもたちへ悪影響を憂い、459人の賛同も得て、放射性物質による健康影響検査費助成を求める陳情書が市長あてに提出されました。
沼田市からは、専門家や有識者も心配ないので「国の動向を見守る」との回答だそうです。
沼田市の立場は「有識者」と言われる人々の「机上の知識」よりも、今ここで起きている現実や実態を直視して、国や有識者へ正しく、まっすぐに伝える態度を選択すべきと考えます。

高柳 かつみと 歩む会 ニュース

**2013年春夏期
NO42号**

発行責任者 高柳 勝巳 〒378-0055沼田市柳町2570-11 割田アパート2号 22-6860
HP <http://www.orahoo.com/ayumu-kai/> Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com



祝 開店 沼田マルシェ

三井生命から、85%の所有権を継承したイトハ イテック(株)が100%出資で、昨年オープンさせた沼田マルシェですが...。沼田市が60%の株を所有する沼田都市開発(株)とは管理費の支払いを巡って係争中です。

**沼田市予算
修正案可決**

(上 毛)

花火大会の助成減額

商業施設補助は予備費

沼田市議会は19日、予算審査特別委員会を開き、「グリーンベル21テナント出店促進事業費補助金」の5千万円を予備費に回し、「沼田花火大会補助金」500万円を3000万円に減額する議員提案の新年度一般会計予算の修正案を賛成多数で可決した。減額分の200万円は予備費に計上する。市議会事務局によると、修正案の可決は1987年以来、25年ぶりという。

第42号目次

H25年度予算審査特別委	P 2 ~ 5
予算案修正可決の経過と概要	
私の一般質問	P 6
障がい者雇用の向上について	
H25年度予算審査特別委	P 7 ~ 8
防犯灯・小水力発電・学校給食の安全対策	

沼田花火大会が開催されるという硯田の運動公園を上川田地区から撮ってみました。

【グリーンベル21出店事業費補助金】【沼田花火大会補助金】

表紙にも掲載してあるように、上記2つの「補助金」について、私を含めた10人の議員が沼田市当局が提出した予算案に「注文」を付けた格好となりました。（採決は賛成10：反対9）

もちろん、私も各議員もグリーンベル21の明るい展望、や花火大会自体そのものを否定したり、反対したりするものでは、決してありません。

この2つの補助金の妥当性、有効性、整合性等において、当局の説明を受けても尚、市民にきちんと説明できるまでの内容ではなかったため、以下にその概要を説明します。



「行財政改革」に必死に向き合ってきた地域住民や団体の必死な姿が、そこにはあった！

●（H18年度～4年間）第6次行財政改革

H20年度には、「起債許可団体」となったため「公債費負担適正化計画」を作成して、市民の方々にも「痛みを伴う改革」をお願いしてきました。

●概要は、H20・21年度事業費補助は10%、団体運営費補助は20%の削減を実施し、その削減効果は＝5,142万5千円としています。

●（H22年度～5年間）第7次行財政計画

各種補助金については、事業の公益性、必要性や補助の効果、経費負担のあり方等を総合的に検証し、整理合理化に取り組んでいます。

補助事業数264事業で、H26年度には、全件見直しという流れになっています。

また、これと並行して「市民協働」を進め、現在38の団体との連携を、300へ増やすことも目指しています。

●H27年度～第8次行財政改革策定へ？

おそらく今後の姿は、市や市民にとって有効・有益度の高い事業をする団体へは、傾斜配分し増額？そうでないものは…。とする方針を加速させていくものと推察されます。

行財政改革は、市民活動団体や連携事業だけに向けられているものではありません。行政内部でも多くの「痛みを伴う」施策を実施していますが、「こうした状況を乗り越えれば…」という「希望の共有」こそが、基本でなくてはいけないと私は、考えるのです。

ですから、各種団体や活動補助金の支給にあたっては、その必要性、他の事業と公平性や整合性を、より精度高く求められ、市民への説明責任も当然、強く求められると考えたのです。



昨年3月定例会で、私を含め、多くの議員が指摘した経過が、そこにはあった！

●H24年3月定例会 予算審査特別委員会

X議員Q：Aコープの出店に際しても、都市開発㈱へ増資したが、継続が困難だった。そうした反省を踏まえての今回の補助金提案なのか？

A：残念ですが、努力はしました。評価は…。

Y議員Q：沼田都市開発㈱と所有者でトラブルが生じている中、出店を促すことが係争中の相手を利する結果につながるのでは？

A：あくまでも、買い物難民解消や、雇用の創出といった「市民のため」だけのものです。

Z議員Q：候補として具体的な企業が、挙がっているのか？空手形ではないのか？

A：厳しい環境下で、関心を寄せてくれた企業へ何も用意しないで待つ訳にはいかないで…。

高柳Q：沼須産業団地へは「企業立地促進要綱」を制定しましたが、「満額」の3千万円の予算計上でなく1千万円ですが、要綱を作って同様の措置では、だめなのですか？

A：他の自治体の企業誘致における「競争」への対応の一つです。

●H24年9月定例会 高柳一般質問

Q：新たに出店するテナントの管理費の支払いは、都市開発㈱で良いのですか？それとも所有者のイトバイテック㈱ですか？

A：経過からして、当然、都市開発㈱ですが…。

Q：都市開発㈱の今の状況は、財政状況も厳しく専従事務局員も退職して、自分の企業運営さえ厳しく、所有者との係争中ですが…。

A：経営状況は、厳しいと認識していますが、都市開発㈱は、法人格を有した「一民間企業」ですから、事態を注視しながら、推移を見守りたいと思います。

3月定例会 高柳勝巳の H25年度予算審査特別委員会

○LED防犯灯推進事業 1,000万円

【事業概要】平成22年度から新設の防犯灯LED化は進めてきていますが今後は、既設のものも含めて実施し、全灯LED化を加速するためのものです。

高柳Q：財政的效果と今後の考え方を伺います。

A：新設の場合、1基の設置に約3万円で、新年度に300基を設置として、年間電気料金が約55万円程度節減出来ると見込んでいます。

新年度のペースで事業を推進した場合でも、概ね5年で「全灯化」を達成する考えです。

○水力発電推進事業 2,296万5千円

【事業の概要】「売電」を想定した小水力発電施設の設計と、環境教育用のごく小規模な発電設備の設計及び工事の予算計上です。

また、水力発電には関係機関との調整や申請の際に、専門的知識が必要となるため、嘱託員の人件費を計上しました。

高柳Q：具体的には、どんな内容ですか。

A：「売電」用では、砂防ダムを活用したものを考えていて、200kW未満で最大限の出力が得られるよう、データや資料を調査研究中で、地域の雇用や活性化へもつなげたいと考えています。教育用では、500w程度の出力によるLED照明や発電量の掲示板の設置などを考えています。

右は、教育用発電候補地の沼田公園脇の水流下は、売電用発電候補地の利根町平川の砂防ダム。以前から私も求めていただけに緊張します。



○沼田給食センター管理費1億4,614万5千円

高柳Q：放射性物質測定のこれまでの結果と、食材の安全性確保に向け、どう取り組んできたのか伺います。

A：現在3つの調理場の食材を月2回、放射性物質測定を実施し、公表しています。また、昨年9月からは、一部の食材（玉ねぎ、白菜、キャベツ）を事前検査しています。

高柳Q：いわゆる「安全神話」は崩壊したが、その徹底が危惧されます。測定回数や事前検査品目の増品などの検討はされましたか。

A：価格や流通状況など様々な要素が重なっているが、安全性を確保した上で、地元の美味しい食材提供という立場で、今後検討していく考えです。



何故群馬だけ学校給食安心対策事業から撤退するの？

この事業は、学校給食1食全部を（ミキサーにかけて）1週間分（月曜日～金曜日）をまとめて、ゲルマニウム半導体検出器による放射性物質の高精度検査を民間検査機関へ委託して実施していたものです。群馬県内では、川場村を含む6箇所を実施してホームページで公表していました。

事後検査で、しかもごちゃ混ぜにしての検査では？との声もありましたが、それなりの効果はあると考えています。

ところが、これまで対象が17県だったものが、H25年度では9県に減らされ、長野や新潟、青森があるのに、その真ん中の群馬県はなんと対象外！事業費は110万円と聞いていますが、県の単独事業でも実施して欲しいものです。

3月定例会 高柳勝巳の 一般質問概要

高柳Q：今、多くの企業ではグローバル化や過当競争が激化し、「仕事の受注や企業の存続」を賭けた「生き残り競争」に飲み込まれ、「雇用、賃金、労働条件」などが影を潜めざるを得ない職場の実態があると認識しています。

こうした中、厚生労働省は、昨年6月企業における障がい者の「法定雇用率」を、本年4月1日から現行1．8％を2．0％に引き上げることを決定し、公布しました。

障がい者の雇用は、まだまだ「福祉の領域」を超えるに至っていません。障がいを持っておられる方々の「就労」を通じた社会参加が可能な社会へステップアップしていくためには、これまでの取り組みを精査し、従来の縦割り行政から脱却し、様々な連携が必要と考えますが、いくつかの具体的事項への考えを伺います。

Q：市役所での障害者雇用の状況は？

A：2．32％で、地方公共団体の法定雇用率2．1％は達成しています。

Q：法定雇用率の引き上げに伴う対応は？

A：国の特定就職困難者雇用開発助成金などと連携した助成制度の拡充により、障害のある人の雇用を推進していく考えです。

Q：ジョブコーチ等の職場適応援助の充実は？
A：障害者の就労に当たり、出来ることと出来ないことを事業所に伝達するなど職場内外の支援環境を整え、障害者が円滑に就労できるよう橋渡しを行う専門スタッフ、いわゆるジョブコーチは障害者の新規採用や雇用継続に成果を上げています。

しかし、現在、利根沼田地域にはジョブコーチを配置した事業所がないため、関係機関との連携を図りながら、研究をしていく考えです。

Q：経済部と健康福祉部の連携強化による障害者就業・生活支援センター（コスモス）の機能強化について伺います。

A：（コスモス）は在職中の障害のある方が抱える課題に応じて、就業面及び生活面の一体的な支援を行っています。

今後、市の関係部署との連携強化を、さらに図っていきたいと考えています。



上の写真は多数の障がい者雇用で有名なチョークの会社＝日本理化学工業での働く姿です。



働いて役に立つ会社 こそが人間を幸せにする

この言葉は、日本理化学工業のホームページに掲載されている「もうひとつの使命」から引用しました。そして以下の長文の考え方を持って、左記の障がい者雇用への質問を行いました。

労働自体が目的化し、「苦痛」になってしまっている今日にあって、障がい者とも協力し合って「幸福を得る」ために働く意味を、私たちは再考すべき時に来ているのではないのでしょうか。

～以下日本理化学工業ホームページより～

障がい者多数雇用を目指したのは、禅寺のお坊さんから「人間の究極の幸せは、1つは愛されること、2つ目はほめられること、3つ目は人の役に立つこと、4つ目は人に必要とされることの4つです。福祉施設で大事に面倒をみてもらうことが幸せではなく、働いて役に立つ会社こそが人間を幸せにするのです」と教わったからでした。

ベルギーでは、国が最低賃金を企業に代わって支払地域で自立させている制度がある事を知りました。12万前後の最低賃金を国から支給され、そこからグループホームに月6～7万払えば生活の面倒をみられて、地域社会で自立ができます。国は福祉施設で面倒みれば年間500万円がかかる所、最低賃金150万とすれば年間350万以上の財政削減が出来ます。

そして国民にとって、障がい者を持つ親は将来への不安が少なくなり、地域で自立できれば地域の活性化にもつながり、まさに四方一両得となるのです。

グリーンベル21核テナント出店

促進補助金交付要綱 平成24年6月1日（趣旨）第1条 グリーンベル21に核となるテナントの出店を促進し、他の店舗の出店を誘発することにより、市民生活の利便性と雇用を確保するとともに、地域経済の活力と商店街のにぎわいを創出するため必要な事項を定めるもの。
（補助金の交付）第2条 店舗面積が1,000㎡以上で出店するテナントに対し、予算の範囲において補助金を交付するものとする。
（補助対象経費）第4条 テナントが出店に際し行った改装に要する費用とする。



H25年度予算審査特別委員会 グリーンベル21出店補助金 5000万円の主なやり取り

Q：昨年以降の、テナント誘致の経過と内容の説明を求めます。

A：「補助金支払要綱」を作成して、経済建設常任委員会等へも報告をしてきました。

数社からの反応があり、中には「先発の優位性」として、この地域で事業展開していない業種の企業もありました。補助金を用意しての出店促進は、一定の評価も得ています。

Q：所有者と沼田都市開発㈱の訴訟の状況と、補助金を出すことの整合性をどう考えているのですか。

A：昨年、メドテックインベストメント から管理費等の支払い義務は、存在しないとした訴訟が起こされ、これまでに8回の公判が開催されましたが、今だ解決に至っていません。

沼田都市開発㈱に落ち度があるとは考えていませんが早期に解決し、マイナスイメージが払拭されることを期待しています。

Q：沼田都市開発㈱の経営状況は厳しく、テナント誘致できる環境にないのでは。また、ビルの85％を所有している企業とは一体的に運営をしていく状況にないのではないですか。トラブル等の防止策を考えていますか。

A：管理運営会社と所有者の関係が良好でないことは、一体的運営の支障であると考えています。沼田都市開発㈱経営検討委員会方針も受け、出資の範囲内で可能な支援を行っていく考えでいます。



結局、この一年問い合わせのみ都市開発㈱の経営は、悪化所有者との裁判は、係争中！

左に記載の通り、昨年の3月の状況よりも今年の状況の方が比べ物にならない位、厳しいと認識していますし、昨年来のクリアすべき課題も、スッキリとは説明してもらえませんでした。
【未消化課題】昨年より、出店の可能性は厳しいのに、2年間と決めたから今年も同額計上するという考え方には疑問です。

普通は、状況の変化を分析して、単年度の事業として、きちんと計上すべきと考えます。

【未消化課題】メドテックからの訴訟は、昨年9月の一般質問に対して「もうすぐ結論は出る。」としていましたが、今年になっても係争中です。

メドテックは、昨年秋の沼田マルシエ出店に際して、沼田都市開発㈱を通さず、出店させました。今後のテナント出店者は、どちらに管理費を支払ったら良いのか答弁が不鮮明でした。

また、改装費を補助するということは、係争中の所有者の持分の価値を上げることになるのでは？（市民のためではないのですか？）

「紛争が早く解消されることを望みます。」という姿勢ですが、当事者意識が薄いのではないのでしょうか？

【未消化課題】昨年の秋の一般質問でも聞きましたが、沼田都市開発㈱は、また、新たな年度決算を向かえます。残金は昨秋の段階で数百万円という答弁でしたが、こちらの運営も大丈夫でしょうか？テナント誘致している場合ではないのではないのでしょうか？（アカシア・日本一・笹屋ホテルも、撤退となりました。）

【選択肢提案】このような「高いハードル」を乗り越えて、出店してくださる企業があれば、補助金要綱に照らして、予備費も活用して補正予算を組み、対応しても十分間に合うのではないのでしょうか？

昨年も議会で発言しましたが、例えば乱暴ですが、これでは結婚相手が決まっていなのに式場を予約するようなもので、その式場も様々な問題を抱えているという状態に似ていると思えて仕方ないのです。



実は、昨年秋からの経過がありました。（H24年9月議会）

【議員Q】かつて開催されていた花火大会は、一度いろいろな都合で中止になり、市長さんの後援会等で利根川の河川敷で花火大会が何度か開催されたという経過です。

苦しい中であっても市民が一同に、和気あいあいと一夜の夢を託すことも時には必要なと思いますが、今の市長のお考えをお示し下さい。

【市長A】この夏、県内では大小あわせて44箇所、15万発を超える花火が打ち上げられています。本市でも「老神温泉納涼花火大会」が利根町観光協会によって開催され、2,800発、9,000人の参加を得ました。

さらに、多那地区の方々がふるさとの祭りを実践する中で、やはり頑張っているという姿に感銘を受けています。

これらを客観的に見たときに、その開催会場が河川敷であったり、大きな広場であったりして、まず警察当局、あるいは当然消防防災関係当局の客観的分析の中で、安全が担保されているということが重要です。

また当然、一夜の夢を語ったり、団結したりというようなことの背景には**哲学が大事**かと思っています。例えば、**沼田まつりの初日か3日目であるとか、お盆の時期であるとか、または産業祭の時であるとか、が時期としては想定されてくるのかな**と思っています。



たつの市の無料写真から掲載してもらいました。



H25年度予算審査特別委員会 沼田花火大会補助金の高柳の200万円減額の主なやり取り

高柳Q：沼田公園桜まつり補助金の事業内容と今後の事業展開を伺います。また、沼田花火大会補助金の事業内容と行政内部での補助金の妥当性の検討内容を伺います。

A：桜まつりは、安心して花見が楽しめるよう1500個の提灯の点灯や鐘楼と御殿桜のライトアップ、14日にメインイベントとして、フリーマーケットやステージショーを開催する内容で、これに補助をしていくものです。

花火大会は、沼田商工会議所のご発意で、市民に元気や夢を与え、地域の活性化と本地域の観光等を情報発信する趣旨で開催され、具体的には、小委員会の「沼田花火大会やるからには」で検討されていて、昼からの出店や大玉200連発、沼田城を幻想的に花火で復活させる企画などがあり、旅行会社のツアーも入れて、県下で一番を目指していると聞いています。

補助額の妥当性については「商工会議所の事業への考え方」や「近傍類似事業」への補助内容を参考にして決めました。

高柳Q：補助額の検討は、それぞれ、どのように、いつ頃されたのか伺います。

A：桜まつりも、当初は夜間のお客様への「おもいやり照明」から始まり、徐々に発展してきた事業と聞いています。従って補助額の検討も、変更の有無を確認した上で、年明けに実施要綱を検討し計上しました。花火大会の方は、1月9日に商工会議所が機関決定され、下旬に要望書をいただき検討しました。

高柳Q：桜まつりは、すでに25回を数え市民もその内容や観光的効果も熟知しています。

私も評価をし、関係者には敬意を表しますが、一方の花火大会は、まったくの「新規事業」に対して1月下旬の「要望書提出」から2月上旬の予算内示までの間に、かなり濃密な検討をされたと考えますが、「近傍類似事業」と比較して計上というが、例えばこの桜まつりや沼田まつり、星の絆プロジェクト等、市内の類似事業との比較は、されたのか伺います。

私は、こうした視点を欠くと、市内で同じく

頑張っている事業や団体への公平性に疑心を抱き、本来の目的である「市民の一体感や連帯感」の醸成を削ぐと考えますがどうですか。

A：「要望書」は1月でしたが、事業内容については、昨年から概要把握をしていました。

市内の他の類似イベント事業との比較では、単に「額」の多寡だけでの判断は、困難と考えます。

補助金は「沼田市補助金等に係る予算の執行の適正化に関する規則」によって支出されますが、さらに補助金要項を定めて適正化に努めたいと考えています。



以下に主なイベント補助金一覧表と補助金の適正化に関する規則を掲載しました。皆さんがご存知の事業の内容や、この規則に照らしてみても「妥当性」等を考え、評価いただけたらと思います。

補助事業名	金 額
沼田まつり補助金	700万円
風のまつり補助金（利根町）	370万円
産業展示即売会補助金	285万円
ふるさとまつり補助金（白沢町）	280万円
農業まつり補助金	81万円
大商業祭補助金	66万8千円
桜まつり補助金	38万8千円
沼田だるま市補助金	26万4千円
沼田ふびす講補助金	21万8千円

沼田市補助金等に係る予算の執行

の適正化に関する規則 昭和44年12月1日（交付の原則）第3条 補助金等が、市民から徴収された税金その他貴重な財源でまかなわれるものであることに特に留意し、国、県又は市の施策に沿い、補助事業等が真に市民の福祉増進のための事業又は事務であって、市が直接施行することが困難であり、又は補助事業者等が施行することが最も効率的であるか、若しくは補助事業等が補助金等の交付に相当であると認められるものに限り交付するものとする。

2．前項の補助金等の額は、別に法令、条例等で定められているものを除き、毎年度予算の定めるところによる。



私が提案者となり提出した修正案の概要

まず、商業振興費の「グリーンベル21」テナント出店促進事業費補助金であります。昨年の平成24年度第1回定例会において本年同様、予算審査特別委員会で、多くの議員から質疑がなされ、その効果、適時性、方法、クリアすべき課題などについて指摘されました。

こうしたことを受けて、委員会採決においても本会議においても、各議員からは、この予算計上が無駄にならぬよう最大限のテナント誘致に取り組み、重要な場面では議会に報告をし、理解を求めながらことにあたるよう求める趣旨の討論が相次ぎ、新年度予算の執行を承認した経過があります。

そして1年が経過し、本補助金は未執行のまま本定例会にも同額計上で提案されております。

財政運営の厳しい本市においては5千万円という予算が、他の事業に活かされたなら考えると、とても市民に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

審査の過程においても、残念ながらこの事業が未執行に終わった分析も、昨年度から継続された指摘事項の改善策も明らかにならなかったと判断し、平成25年度における計上を修正、「予備費」とし、当局において真剣にすみやかに再考を促すものです。

次に、観光交流費の沼田花火大会補助金ですが、厳しい社会情勢の中であって、昨年のオリンピックのように、市民に夢や希望を与える事業になんら意義を唱えるものではありません。むしろ、歓迎する気持ちでいっぱいなのは提出者一同の総意であります。

しかしながら、この間の沼田市の厳しい財政状況を受け、本市の取り組む「行財政改革」に必死に向き合い、^し、^の、今日まで頑張ってきている市民の心情に想いを寄せたときに、議会としてそのプロセス、妥当性、他の補助金との整合性等において、市民にきちんと説明できるまでには至りませんでしたので、これを減額し当局において真剣にすみやかに再精査を促すものです。